

日本語教師養成サブコース履修者へのアンケート調査（2017年11月～12月）結果概要

調査者：川上尚恵

1. 回答者

回答者数：9名（対象者17名）

回答率：53%

回答者の内訳：

- ①コース：言語コミュニケーション（4名）、アジア・太平洋文化論（2名）、先端社会論（2名）、比較文明・比較文化論（1名）
- ②属性：日本人学生（2名）、留学生（7名）

2. 質問紙の構成

履修前、履修中、履修後の3つのカテゴリーに分け、それぞれ大問5問、計15問（小問含め21問）から構成

3. 結果

3-1. 履修前

履修前1. 大学院での専攻について、次の①と②にお答えください。

① 大学院での専攻（コース）は何ですか（選択）

言語コミュニケーション	比較文明・比較文化論	先端社会論	アジア・太平洋文化論
4	1	2	2

② 大学院でのあなたの専攻（研究テーマ）は、日本語教育と関係するものだと思いますか。関係すると思う場合は「はい」、そうでない場合は「いいえ」と教えてください（選択）

はい	5
いいえ	4

履修前 2. 日本語教師養成サブコース履修前は、日本語教育に関してどのような経験がありましたか。(複数選択可)

項目	日本語教授	言語教授	日本語教育に関する学習	言語教育に関する学習	日本国内交流	海外交流	日本語学習	日本語学学習	特になし	その他
回答数	4	4	3	3	2	4	6	5	1	0
選択率	44.4444444	44.44444	33.33333333	33.33333	22.22222222	44.44444444	66.66666667	55.55555556	11.11111111	0

履修前 3. 上記の2で、A・Cを選択しなかった人にお聞きします。日本語教師養成サブコース履修前は、日本語教育についてどのようなイメージ・考えを持っていましたか。自由に記述してください。

日本語教師養成サブコースを履修前は、日本語教育には興味を持っていて、独学した事があるので、日本語教育の基礎知識は持っています。	例えば、文法で何が違うのかを言うのは簡単だが、どうして違うのかの説明を求められると難しい。日本語教育では、それを易しいことばで説明できるようにするため、かなり専門的な知識が必要だろうと考えていた。	履修する前に、日本語教育は単純に日本語と日本文化を教える授業であると思いました。
---	--	--

※該当者は5名(内、3名が記述)

履修前 4. 日本語教師養成サブコースのことをどのようにして知りましたか(複数選択可)

項目	オープンキャンパス	ホームページ	パンフレット	新入生ガイダンス	先輩や友人	国際文化学研究科の教員	国際文化学研究科の事務職員	その他
回答数	4	2	1	5	1	4	0	0
選択率	44.4444444	22.22222222	11.11111111	55.55555556	11.11111111	44.44444444	0	0

履修前 5. 日本語教師養成サブコースを履修しようと思った理由は何ですか。自由に記述してください。

<p>日本語教育を学びたいから、大学院に入ると決めました。他の大学院には日本語教育コースもありますが、神戸大学では、日本語教育だけではなく、言語について全盤的に学べるので、こちらの言語コミュニケーションコースに入って、日本語教師養成サブコースを履修する事にしました。</p>	<p>・今まで「学ぶ」立場として学んできた日本語を、「教える」立場として学びたかったため ・日本語教育と韓国語教育を照らし合わせて考えたかったため ・自分の専攻(先端社会論)以外の専攻を学べる良い機会だと考えたため</p>	<p>大学の専門は日本語で、将来日本語の先生として働こうと考えたことがあります。また、元々から日本に於ける日本語教育と本国の大学に於ける日本語教育の教え方の差異に興味がありました。</p>	<p>理由は2つあります。まず、日本語教育に対して興味があって、日本語や日本文化に対する理解をさらに深めたいと思いました。また、サブコースを履修することで、就職の幅を広げることも期待していました。</p>	<p>日本語の勉強歴は何年かがありました。教育側からの視角というもののなかについて興味があります。それに、将来の就職には、役に立てるかと考えております。</p>
<p>大学卒業後、日本語教師を志望していたため。</p>	<p>学部で日本語を専攻し、すでに日本語教師養成コースを履修していましたが、日本語教育についてさらに深く学びたいと思いました。</p>	<p>・将来日本語教師になりたいからです。 ・履修条件を満たした場合、証明書をもらえるからです。</p>	<p>大学では日本語を専攻としました。将来的には日本語教育に携わることができれば良いと考え、サブコースを履修しようと思ったのです。</p>	

3-2. 履修中

履修中 1. 日本語教師養成サブコースの科目の履修方法を理解するのは、難しかったですか（選択）

【例】A-Dの領域別科目の選択や対象科目の選択など

選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
回答数	1	0	2	5	1

履修中 2. 自分の専攻に関する学習（研究）と日本語教師養成サブコース履修科目に関する学習の両立は難しかったですか。次の①～③についてお答えください。（選択）

- ① 時間割の編成上、授業を取るものが難しかった
- ② サブコース履修科目の内容が専門外のため、自分の専攻に関する学習（研究）と両立することが難しかった
- ③ サブコース履修科目の課題が多く、自分の専攻に関する学習（研究）と両立することが難しかった

①	選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	回答数	0	1	0	4	4
②	選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	回答数	0	0	0	5	4
③	選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
	回答数	0	0	0	4	5

履修中 3. 日本語教師養成サブコースの科目として履修した授業の内容や学習が、自分の専攻に関する学習（研究）や進路などに何か影響をしましたか。「はい」を選んだ人は、その理由を具体的にお書きください。

はい	6
いいえ	3

「はい」の理由

履修前にもう日本語教育の一本道を決めました。履修した後、自分がしたいことをより具体的に、ハッキリに見えてきました。	現在日本語教師をしているため、教授法や教科書分析など、サブコースで学んだことが日々の業務に活かされている。	社会・文化・地域の分野が文化関連専攻の科目に多くあったので履修しやすかったです。また、翻訳関係の科目は私の研究に関わる場所がありました。	日本語教育についての教授法や実践的な能力を身につけることができました。	本を読む時日本語勉強を意識するようになりました。論文を書く時も日本語を正しく使うように努力するようになりました。日本語が上達できました。	研究のテーマは日本語教育に深く関係していましたので、履修した授業の内容や学習はとても役に立ったと思います。例えば、実際の日本語授業に参加したり、日本語教科書の分析方法を学んだりしたことで自分の研究には大変役に立ちました。
---	---	--	-------------------------------------	--	--

履修中 4. 日本語教師養成サブコースの科目を履修することで、どのような知識や能力などを身につけることができましたか。該当するものをお選びください。（複数選択可）

項目	対学習者コミュ能力	日本語・言語関心	日本語・言語鋭い感覚	国際感覚・人間性	専門性・意義・情熱	言語知識	言語知識活用能力	日本語教授知識	日本語教授知識活用能力	背景知識	背景把握・分析	その他
回答数	6	4	6	3	6	5	4	7	3	7	5	0
選択率	66.6666667	44.4444444	66.6666667	33.3333333	66.6666667	55.5555556	44.4444444	77.7777778	33.3333333	77.7777778	55.5555556	0

履修中 5. 日本語教師養成サブコースの科目を履修中、日本語教育について思ったこと、感じたこと、気づいたことなどがありましたら、自由にお書きください。

<p>履修中に時々アシスタントとして留学生の日本語授業に参加し、いろんな学習者と接することができます。今までは周りには日本語学科出身の学習者が多いが、その人たちと違う目的、違う勉強方法などを持っている学習者と接して、教師には柔軟性が大事だということに感じました。</p>	<p>授業を考える際に、学習者のレディネスやニーズを調べ、様々な観点を考慮しなければならないことに気づいた。(すみません、あまり思い出せませんでした。)</p>	<p>・日本語教育の現場は、韓国語教育の現場よりそのシステムが成熟していると感じた ・来日する外国人も多く、日本語を学ぼうとする人も多い中、その需要に満たすほど日本語教育に携わる方々の数がやや少なく、世間一般の認識もそれほど高くはないと感じた ・韓国語を教える立場になっても、日本語教師養成サブコースで学んだ知見や知識を活かす場面が多々あった</p>	<p>日本語教師養成サブコースの科目を履修してから、日本語教育を行う場合、配慮しなかなければならないということに気づきました。日本語を自由に使えることができただけで日本語の先生になれないと考えるようになりました。日本語を教える方法は非常に重要であり、学習者の求めるものや教材資源などを柔軟に対策する必要があると気づきました。また、学習者の母語と日本語の特性を分析することも大事であると考えようになりました。</p>	<p>日本語教師というのは、ただ語彙や文法や聴解などの言語知識を教えて、能力試験に合格させるだけの様な仕事ではありません。ある意味では、外国の日本語学習者にとって、教師である私をきっかけにして、他国の文化や制度、考え方で接触するチャンスとなるでしょう。その故、どのように正しく自分の気持ちを他人に届ければよいのか、それについての考えや学びを、まだまだ足りなくて、もっと探さなければなりません。</p>
<p>特にありません。</p>	<p>日本語教育は、日本語を教えるということだけを指しているのではなく、分野が広いと感じました。</p>	<p>日本語教育は専門性の高い学問であること、誰でも教えられるのではなく、知識を高めるのはもちろんですが、学習者との関係づくり、授業全体の雰囲気、テンポよくできるようになるために経験を重なっていくのも重要だと感じました。</p>	<p>日本教育は奥深い学問で、言語の専門知識だけではなく、異文化コミュニケーションや政策支援など、いろんな学びが必要になります。</p>	

3-3. 履修後

履修後 1. 日本語教師養成サブコースを修了しましたか (選択)

はい	8
いいえ	1

履修後 2. 日本語教師養成サブコースを履修・修了してよかったと思いますか (選択)。その理由を具体的にお書きください。

選択肢	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	そう思わない	まったくそう思わない
回答数	9	0	0	0	0

その理由

記述なし	現在の業務に活かされているから。	苦手だった日本語文法について、比較分析する力が付いたと思います。	・自分の専攻以外の専攻を学ぶ良い機会であり、その分自分の視野を広げることができ、かつ、言語を教える際にその広い視野が役立つ場合もあると考えるため	・日本語教育についての知識を身につけることができました。 ・修了書をもらい、仕事の選択肢が一つ増えました。	日本語の教師として働いてないが、日本語の上達に繋がりました。日本語教育についての知識を身につけました。日本語母語話者ではない人と交流する時、日本語能力を判断して、適切なコミュニケーションを取るよう意識するようになりました。	今、日本語教育に関する仕事をしていないですが、将来、帰国したら日本語教師になりたいです。サブコースで学んだことは絶対、役に立てると思います。	サブコースで学んだことは、今の仕事の内容とは直接に関連していませんが、日々の日常生活で活用しています。	いろいろ勉強になりました。サブコースをきっかけにして、昔学んでいた内容をきちんとまとめて考え直すことができます。
------	------------------	----------------------------------	--	--	---	--	---	--

履修後 3. あなたの現在の状況について、次の①～③にお答えください。(選択)

① どこに住んでいますか

日本	7
日本以外の国	2

② 特定の教育機関(大学院など)において、日本語教育に関連する学習(研究)をしていますか。

はい	3
いいえ	6

③ 日本語教育に関連する仕事(正規・非正規)をしていますか。あるいはそのための準備中ですか。

はい	6
いいえ	3

履修後 4. 日本語教師養成サブコースでの経験の活かし方について、次の①と②にお答えください。

① 現在、サブコースで学んだことを活かす機会がある。「はい」を選んだ人は、その理由を具体的にお書きください。

はい	7
いいえ	1
わからない	1

「はい」の理由

<p>今は塾で中国語を教えながら、博士後期課程で日本語教育のことについて研究しています。サブコースで学んだことは無論研究には役立ちますし、他の言語の教育にも活かされます。</p>	<p>現在日本語教師をしているため、教授法や教科書分析などを学んだことが日々の業務に活かされている。</p>	<p>現在、「〇〇」(日本語学校名:調査者略)で非常勤講師として勤務し、初級後半クラス文法、初中級クラス聴解をしています。齊藤先生、朴先生の授業で教えていただいたことだと思いますが、学習する文法項目に適切な例文を多くあげることが心掛けています。</p>	<p>現在ボランティアで初級日本語を教え、サブコースで学んだ知識で、初級の段階にあった語彙の選択、文法の説明を行うようにしています。</p>	<p>「〇〇」(日本語学校名:調査者略)でアルバイトをしていて、初級レベルのクラスで日本語を教える許可を得ることができました。条件は、一ヶ月の研修が必要です。博士論文の準備で実施できていないところです。</p>	<p>日本語の構造や、異文化コミュニケーションの知識など、日々の生活でいろんな場面で運用しています。</p>	<p>今、地元の外国語教育機構で日本語教師として勤めております。神戸大学での学習歴があってこそ、就職先に信頼されたり、受け入れられたりしたことになります。勿論、日本語教育についての知識も、教育現場での状況と照らしながら、深め続けたいと思っています。</p>
---	--	--	--	---	--	--

② 将来、サブコースで学んだことを活かしたい。「はい」を選んだ人は、その理由を具体的にお書きください。

はい	8
いいえ	0
わからない	0
選択なし	1

「はい」の理由

将来はサブコースで学んだことを活かして、日本語を教えたいです。	現在の仕事と深く関わっているから。	細かい内容になりますが、学生がら助詞についての質問が多くあり、朴先生の演習で「に」格を分析した経験が役に立っています。今後、他の助詞についてもしっかりと身に付け即答で答えられるようにしたいと思います。	・現在は一般企業で働いているが、いずれは日本語(もしくは韓国語)を教える立場としての職業に携わりたいため	サブコースを修了し、日本語教育についての知識を身につけたため、今後ボランティアだけではなく、正規で教えていきたいと思っています。	授業で学んだことを実際に活用したいです。異なる文化を背景にする人々との交流が楽しいです。	日本語教師になりたいです。	将来的に、日本語教師の仕事もチャレンジしてみたいと思っています。
---------------------------------	-------------------	--	--	--	--	---------------	----------------------------------

履修後 5. 日本語教師養成サブコースについて、ご意見がありましたら、自由に記述してください。履修前、履修中、履修後、どの段階でも構いません。

特に良かったのは、日本だけでなく複数の国からの履修生がいたため、彼／彼女らの学習経験を聞いたことである。サブコースでは知識を得ることはできたが、それを実際に活用する機会は少なかったように思う。カリキュラムや区分の関係で難しいかもしれないが、今後、履修生がサブコースの経験を現場でより活かせるように、模擬授業や日本語教育文法、誤用分析などの実践的な授業の割合が増えると思う。	・履修の際、院ゼミと必修科目の時間が重複したことがあり、やや不便はありました。私の場合、指導教員と相談後、調整が出来たため2年次にその授業を履修し、無事にサブコースの修了が出来ました。万が一それが出来ない場合が発生するかもしれないので、もし可能であれば、そのように主専攻の必修授業とサブコースの必修授業が重複した際の対策があればより良い環境になるのではないかと思います。 ・とても素敵な先生の方々のおかげで、沢山のことを学び、無事に終了することができました。この場を借りて、重ねてお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。	・様々な専攻の履修生と一緒に授業を受けることで、話題に関する視点の多様性を感じました。 ・言語コミュニケーションの学生にとっては、授業での発表の回数が減り、練習のチャンスが少なくなったと思いました。	サブコースを履修するチャンスを設けていただき、ありがとうございます。サブコースを履修することで、一番よかったと思ったのは視野を広げたことです。自分の専門以外に、この世界に対するアプローチの仕方を増やしたと思います。これからもサブコースで学んだことを活用していきたいと思います。
特になし。	特にないです	いろいろお世話になりました。誠にありがとうございました。	今年の夏期集中コースの講師にお声かけいただき、貴重な教師経験ができました。今後も引き続き、サブコースを履修した学生に経験を与えられる場になればいいと思います。

4. 考察 (気がついた点)

- ・日本語教育を専攻としている (研究テーマとしている) 人とそうでない人が 5 : 4 で同程度。

- ⇒教育内容のレベルを合わせることが難しい。
- ・履修前の経験として、「日本語学習」（約 66%）及び「日本語学学習」（約 55%）経験者が多い。
⇒非母語話者の多さが反映。
 - ・履修前の経験として、「日本語教授」（約 44%）経験者が一定数いる。
⇒教育内容のレベルを合わせることが難しい。
 - ・履修理由は、「大学院での専門性」や「日本語学習者としての視点」に関わる理由が多く見られ、「日本語教師志望」が将来的な希望や就職のための実利的理由も含めて 7 割あった。
 - ・科目の履修方法の理解、サブコース科目と専攻科目の学習・研究との両立に関して、難しいという意見が少ない。
 - ・サブコース科目の履修により身につけた能力としては、「日本語教授に関する知識」「背景知識」が最も高く、次いで「対学習者コミュニケーション能力」「専門性・意義・情熱」「日本語・言語への鋭い感覚」となっている。知識に関する割合が高く、実践的な活用・応用力の選択の割合が低い。
⇒ 実践的能力養成に関して、課題がある。
 - ・サブコース履修による満足度が高い（「履修後 2」の質問で、「とてもそう思う」が 100%）
⇒アンケート回答者＝コースに関して肯定的意見を持っているというバイアスの可能性も。
 - ・修了後、日本語教育に関わる人が多い（「履修後 3」の③、「履修後 4」の①）、また将来的にサブコースの経験を活かしたいという人が多い（「履修後 4」の①）。
⇒より実践性の高い科目も必要か。
 - ・その他全体的に：日本語教育を専攻としている履修者に対し、教育内容のレベルの低下や教育機会（発言・発表等）の減少がないよう配慮する必要がある。